

シラバス

指定番号 34

商号又は名称： 株式会社 アスラン

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	介護職が働く現場や仕事の内容を、出来る限り具体的に理解させる。 居宅・施設の多様な働く現場における仕事内容を列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
多様なサービスと理解	3	3		< 講義内容 > ・介護保険制度で提供される介護サービス ・介護保険サービス(居宅・施設) ・介護保険外サービス
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		< 講義内容 > ・多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 < 演習の実施方法 > ・「介護職の仕事の内容」についてグループディスカッションを行う。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
時間配分の下限は、30 分単位とする。

項目ごとに時間数を設定すること。

実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 34

商号又は名称： 株式会社 アスラン

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を概説できる。 虐待の定義、身体拘束、サービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
人権と尊厳を支える介護	3	3		< 講義内容 > ・人権と尊厳の保持 ・QOL の考え方 ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止 ・個人の権利を守る制度の概要 < 演習の実施方法 > ・事例を基にグループディスカッションを行う。
自立に向けた介護	4	4		< 講義内容 > ・自立支援 ・介護予防 < 演習の実施方法 > ・事例を基にグループディスカッションを行う。
人権啓発に係る基礎知識	2	2		< 講義内容 > ・人権について ・人権への取り組み ・身近な人権のこと
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
時間配分の下限は、30 分単位とする。
項目ごとに時間数を設定すること。
実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 34

商号又は名称： 株式会社 アスラン

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性を知り、リスクとその対応策の重要なものを理解している。 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事が出来る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	1		< 講義内容 > ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護に関わる職種
介護職の職業倫理	2	2		< 講義内容 > ・職業倫理 ・専門職の倫理と意義 ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護・尊重 < 演習の実施方法 > ・事例を基にグループディスカッションを行う。
介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2		< 講義内容 > ・介護労働における安全の確保 ・事故予防 ・安全対策 ・感染対策 < 演習の実施方法 > ・事例を基にグループディスカッションを行う。
介護職の安全	1	1		< 講義内容 > ・介護職員のこころの健康管理 ・介護職員のからだの健康管理
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
時間配分の下限は、30 分単位とする。
項目ごとに時間数を設定すること。
実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 34

商号又は名称：株式会社 アスラン

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
介護保険制度	3	3		< 講義内容 > ・ 介護保険制度創設の背景と目的 ・ 介護保険制度の動向 ・ 保険システム、要介護認定、ケアマネジメント ・ 介護報酬、財源、組織、その他 ・ 介護サービスの分類と種類 ・ 主な介護サービスの内容とサービス事業者、施設 ・ 保険給付以外の事業
医療との連携とリハビリテーション	3	3		< 講義内容 > ・ 介護における医療と福祉の連携 ・ 介護職と医行為 ・ リハビリテーション
障がい者総合支援制度およびその他制度	3	3		< 講義内容 > ・ 障がい者自立支援制度の背景 ・ 障がい者自立支援制度の基本的な構造 ・ 障がい者自立支援制度のしくみと運営の現状 ・ 生活保護制度 ・ 成年後見制度 ・ 日常生活自立支援事業 ・ 虐待防止制度 ・ その他の制度
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 項目ごとに時間数を設定すること。
 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 34

商号又は名称： 株式会社 アスラン

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	基本的なコミュニケーション上のポイントおよび留意点を列挙できる。 介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
介護におけるコミュニケーション	3	3		< 講義内容 > ・ 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・ コミュニケーションの技法 ・ 道具を用いたコミュニケーション ・ 利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ・ 利用者の状況、状態に応じたコミュニケーションの実際 < 演習の実施方法 > ・ 事例を基にグループディスカッションを行う。
介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		< 講義内容 > ・ 記録による情報の共有化 ・ 介護サービスにおける報告、連絡、相談 ・ コミュニケーションをうながす環境 < 演習の実施方法 > ・ 事例を基にグループディスカッションを行う。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
時間配分の下限は、30 分単位とする。
項目ごとに時間数を設定すること。
実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 34

商号又は名称：株式会社 アスラン

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老齢化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
老化に伴うこととからだの変化と日常	3	3		< 講義内容 > ・ 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・ 老化に伴う心身の変化と日常生活への影響 < 演習の実施方法 > ・ 事例を基にグループディスカッションを行う。
高齢者と健康	3	3		< 講義内容 > ・ 高齢者と健康 ・ 高齢者の疾病と生活上の留意点 ・ 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 < 演習の実施方法 > ・ 事例を基にグループディスカッションを行う。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
時間配分の下限は、30 分単位とする。

項目ごとに時間数を設定すること。

実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 34

商号又は名称：株式会社 アスラン

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
指導目標	<p>認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障がいの違いについて列挙できる。 認知症の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。 認知症の心理・行動、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 認知症の利用者との具体的な関わり方を概説できる。 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。</p>			
認知症を取り巻く状況	1	1		< 講義内容 > ・ 認知症ケアの理念
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2		< 講義内容 > ・ 認知症の概念、認知症による障害 ・ 認知症の原因疾患とその病態 ・ 原因疾患別ケアのポイント ・ 健康管理 < 演習の実施方法 > ・ 事例を基にグループディスカッションを行う。
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2		< 講義内容 > ・ 中核症状、周辺症状 ・ 認知症の人の生活障がい ・ 心理・行動の特徴 ・ 認知症の利用者への対応 < 演習の実施方法 > ・ 事例を基にグループディスカッションを行う。
家族への支援	1	1		< 講義内容 > ・ 家族への支援 ・ 認知症の受容過程での援助 ・ 介護負担の軽減
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 項目ごとに時間数を設定すること。
 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 34

商号又は名称： 株式会社 アスラン

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF について概説できる。 各障がいの内容・特徴および障がいに応じた社会支援について列挙できる。 障がいの受容のプロセスと基本的な考え方について列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
障がいの基礎的理解	1	1		< 講義内容 > ・障がいの概念 ・ICF の考え方 ・障がい者福祉の基本理念
障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	1		< 講義内容 > ・身体障がい ・知的障がい ・精神障がい ・その他の心理の機能障がい
家族の心理、かかわり支援の理解	1	1		< 講義内容 > ・障がい児・者の家族の心理 ・障がいの受容支援 ・家族への支援、介護負担の軽減
(合計時間数)				

使用する機器・備品等	
------------	--

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
時間配分の下限は、30 分単位とする。
項目ごとに時間数を設定すること。
実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 34

商号又は名称： 株式会社 アスラン

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
介護の基本的な考え方	5	5		< 講義内容 > ・理論と法的根拠に基づく介護 介護に関する専門的知識・技術の必要性 介護に関わる法律上の規定や考え方 生活支援としての介護サービス 利用者主体の介護 生活障がいという視点 QOL を高める視点の大切さ
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	3		< 講義内容 > ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	3		< 講義内容 > ・人体の各部の名称と働きに関する基礎知識 ・骨、関節、筋に関する基礎知識 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的にとらえる
生活と家事	3	3		< 講義内容 > ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援
快適な居住環境整備と介護	3	3		< 講義内容 > ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法
整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	8		< 講義内容 > ・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術 < 演習の実施方法 > ・グループに分かれロールプレイングを行う。

<p>移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8</p>	<p>8</p>		<p>< 講義内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・さまざまな移乗・移動に関する用具とその活用方法 ・介護職員にとって負担の少ない移動・移乗の支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 <p>< 演習の実施方法 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれロールプレイングを行う。
<p>食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8</p>	<p>8</p>		<p>< 講義内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ ・楽しい食事を阻害するところからだの要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援 <p>< 演習の実施方法 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれロールプレイングを行う。
<p>入浴、清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8</p>	<p>8</p>		<p>< 講義内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関する基礎知識 ・さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ・さまざまな入浴・清潔を保つための方法 ・楽しい入浴を阻害するところからだの要因の理解と支援方法 <p>< 演習の実施方法 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれロールプレイングを行う。
<p>排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8</p>	<p>8</p>		<p>< 講義内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識 ・さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するところからだの要因の理解と支援方法 <p>< 演習の実施方法 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれロールプレイングを行う。
<p>睡眠に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3</p>	<p>3</p>		<p>< 講義内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害するところからだの要因の理解と支援方法
<p>死にゆく人に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3</p>	<p>3</p>		<p>< 講義内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とところからだのしくみ ・「死」に向き合うところの理解 ・苦痛の少ない死への支援

介護過程の基礎的理解	6	6		< 講義内容 > ・ 介護過程の目的、意義、展開 ・ 介護過程とチームアプローチ < 演習の実施方法 > ・ 事例を基にグループディスカッションを行う。
総合生活支援技術演習	6	6		< 講義内容 > ・ 事例による展開として、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得 ・ 利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得 < 演習の実施方法 > ・ グループに分かれロールプレイングを行う。
(合計時間数)	75	75		

使用する機器・備品等	(別添 2 - 6) 実技演習使用備品一覧表に記載した備品を使用する。
------------	-------------------------------------

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 項目ごとに時間数を設定すること。
 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 34

商号又は名称：株式会社 アスラン

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	<p>在宅、施設のいかに問わず、利用者の生活の拠点に共にいるという意識に基づく模擬演習を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再認識を促す。 終了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に着けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。 最新知識の付与と、次のステップへ向けて課題を受講者が認識できるよう促す。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
振り返り	2	2		<p>< 講義内容 > ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点</p> <p>< 演習の実施方法 > ・事例を基にグループディスカッションを行う。</p>
就業への備えと研修狩猟後における事例	2	2		<p>< 講義内容 > ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例の紹介</p> <p>< 演習の実施方法 > グループによるケース・スタディを行う。</p>
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 時間配分の下限は、30 分単位とする。

項目ごとに時間数を設定すること。

実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。